

平成22年度

事業計画(案)

自 平成22年4月 1日

至 平成23年3月31日



誓願

人よ醒めよ醒めて愛に帰れ  
愛なき人生は暗黒なり

共に祈りつつ

すべての人と親しめ

わが住む郷に

一人の争う者もなきまでに

人よ起てよ起ちて汗に帰れ

汗なき社会は墮落なり

共に祈りつつ

すべての人と働け

わが住む里に

一人の怠る者もなきまでに

## 基本方針（案）

### 仲間を増やそう！広げよう！“幸せの種まき運動”

昨年度（平成21年度）は政治面では戦後初の政権交代、経済面ではデフレ、不景気そして社会面では失業率の増加、就職率の低下など大きな変化の中、厳しい状況が続き、多くの国民が将来に対する不安を抱くようになった一年でした。

修養団においてもいろいろと難しい問題が発生し、年内に予定していた公益法人認定申請を一時先延ばしせざるを得ない状況となってしまいました。

しかしながら一方では4年目を迎えた「出前講座“幸せの種まきキャンペーン”」「SYD ボランティア奨励賞」は全国各地の中学校、高校を中心に大きな反響を呼び、共に前年以上の成果を挙げ、多くの人々に“幸せの種まき運動”を伝える事が出来ました。今年度もこれらの事業を通して、より広く“幸せの種まき運動”を知ってもらえるようにしていきます。

また講習会においては新しい企業の参加や一時中断していた企業の復活など明るいいきざしが芽生えてきていることを実感する年でもありました。今年度はこの芽を大事に育ててより多くの人々が講習会に参加してくださるようしていきます。

平成22年度においても国内では相変わらず、厳しい経済状況、生活状況が続くものと予想される今、人々は“心の豊かさ”“精神的幸福感”を求め始めています。

そういう時だからこそ「愛と汗」の精神を基盤とした“幸せの種まき”の大切さを青少年をはじめ多くの人々に伝え、幸せの種まきを実践してもらえるようにすることこそが私たち修養団の使命と言えます。

そこで平成22年度の基本方針を「仲間を増やそう！広げよう！“幸せの種まき運動”」とし、一人でも多く幸せの種まきの仲間を増やし、家庭、地域、学校や職場にこの運動がより広がり、一粒でも多くの幸せの種がまかれるように、全ての力を結集していきます。

今年度は修養団にとって今まで以上にいろいろと厳しい状況が予想されますが、役員一同、全国の同志と力を合わせ、“愛汗精神”を発揮実践して困難を乗り越え、一人でも多くの仲間を増やすよう様々な活動を展開し“幸せの種まき運動”がより大きく広がるようしていきます。

# I. 青少年活動

※子どもゆめ基金は申請予定です。

日本の未来を担い将来を築く青少年が、健康な身体を養い豊かな感性と高い徳性を磨き、有為な青年に成長することを目的に、基本理念である“愛と汗”の精神に基づいた、自然体験・社会奉仕体験を中心とした青少年育成活動の充実を図る。

## 1. 子ども自然体験活動

“愛と汗”の精神に基づいた子ども自然体験キャンプを全国的に開催し、大自然の中で障害児を含む異年齢の仲間とともに野営による共同生活やさまざまな自然体験活動をとおして、心のバリアフリー化を図り、自然の素晴らしさ、厳しさを肌で感じ、チャレンジ精神、忍耐力、自主性、協調性を学ぶと共に、楽しみながらコミュニケーションの力を身につけ、親への感謝や命の大切さ、他者への思いやりなどの「心の豊かさ」を育みます。

### (1) 夏期子ども自然体験キャンプ

ア. SYD主催「子ども自然体験キャンプ」《文部科学省後援/子どもゆめ基金助成事業》

期 日 7月下旬～8月 <各3泊4日>

開催地 7会場 (えさし、桧原湖畔、いばらき、富士山、関西、瀬戸内海、沖縄)

スタッフ等 各会場スタッフ10名、リーダー20～25名

対 象 小学1年生～中学3年生の児童生徒

募集人員 各50～70名

イ. 連合会・支部「子ども自然体験キャンプ」

期 日 7月下旬～8月 <各3泊4日～4泊5日>

開催地 7会場 (美幌、房総、岐阜、広島、山口、北部九州、鹿児島)

スタッフ等 各会場スタッフ8～10名、リーダー20～30名

対 象 小学1年生～中学3年生の児童生徒

募集人員 各50～70名

ウ. 企画委員会の開催《子どもゆめ基金助成事業》

開催数 1回

会 場 SYD会議室

企画委員 10名 (学識経験者及び地域青少年活動担当者)

エ. キャンプ事前調査《子どもゆめ基金助成事業》

期 日 6月～7月 <各3泊4日>

開催地 7会場

派遣講師 各1名

オ. 印刷物の作成《子どもゆめ基金助成事業》

①子ども自然体験キャンプリーフレットの作成

部 数 12,000部

体 裁 A2版、4色刷り

## ②子ども自然体験キャンプ報告書の作成

部 数 1,500部  
体 裁 A4版、96頁

### (2) 冬期子ども自然体験キャンプ

#### ア. 冬期子ども自然体験（スキー）キャンプ

開催数 3回（12月、1月、3月）＜各4泊5日、1月のみ3泊4日＞  
会場 ばんだいふれあいぴあ、裏磐梯猫魔スキー場  
スタッフ等 スキー指導員各2名、SYD指導者各3～4名（事務担当者含）  
リーダー 各15名（高校生以上の青年）  
募集人員 キャンパー各40名（小学1年生～中学3年生までの児童・生徒）

### (3) 夏期少年少女合宿講習会（青年会議所と共催事業）

開催数 2回（7月～8月）＜各2泊3日＞  
会場 伊勢青少年研修センター  
対象 小学生  
募集人員 各100名  
予定団体 ①社団法人伊勢青年会議所 ②社団法人岸和田青年会議所

### (4) 40Km ナイトウォークの集い

開催数 1回（9月）  
対象 小学3年生以上の子供・一般  
募集人員 100名  
内容 40Kmの夜間歩行

## 2. 子どもボランティア活動推進事業

### (1) 幸せの種まきキャンペーン《文部科学省後援／子どもゆめ基金助成事業》

地域、学校（生徒会・ボランティア部）、PTA等と連携を図り、これまで実践しているフィリピン等での支援活動を紹介し、ストリートチルドレンやスカベンジャーなど「貧困と共に生きる子どもたち」の現状を理解する機会を提供することにより、ボランティア精神を涵養し、“私にもできるボランティア”等のワークショップや実践活動を推進する。このことにより、他者への思いやり、命の大切さ、親への感謝など、“青少年の豊かな心”を育むことを目的として全国的に開催する。

#### ア. 幸せの種まきキャンペーン「出前講座・課外授業」の実施

期 日 通年  
開催数 全国80～100会場  
実施組織 学校（生徒会、ボランティア部・JRC等のクラブ、学童保育等）、市町村教育委員会・公民館、PTA・子ども会など各種団体・グループ、連合会・支部  
派遣講師 各2～3名 ※フィリピンでのボランティア経験者含（学生含）  
実施概要 (1)参加者 15名以上  
(2)プログラム 90分(標準) 他

#### イ. パンフレットの作成・配布

部 数 10,000部  
体 裁 A4版、8頁、4色刷り  
配布先 10,000カ所(重点地区16県の中学校、キャンプの参加者がいる小学校・高校・大学・市町村教育委員会及び都道府県教育委員会、連合会支部等)

ウ. 報告書の作成配布

部 数 1,500部  
体 裁 A4版、64頁

(2) 子ども週末体験活動の推進《文部科学省後援／子どもゆめ基金助成事業》

各種体験活動においてリーダーとして活動している、あるいは今後リーダーを目指す中学生以上の青少年が、SYDの理念を学ぶと共にさまざまな体験活動やその展開方法について学習し、地域にふさわしい週末体験活動を実践するための協議会を開催し、子どもたちの豊かな人間性を育むこと等を目的とした各種週末体験活動を実践する。

ア. 子ども週末体験推進協議会

開催数 全国8～10会場  
期 間 5月～平成23年3月<各1日～1泊2日>  
対 象 将来SYD指導者を目指す中学生及びキャンプリーダー等の青年  
募集人員 各15～25名

イ. 子ども週末体験実践活動

開催数 全国8～10会場  
期 間 5月～平成22年3月<各1日～1泊2日>  
募集人員 各30～50名

### 3. SYD指導者の養成

各種体験活動においてリーダーとして活動している、あるいは将来リーダーを目指す中学生・高校生・大学生等の青少年を一堂に会し、自然体験や社会奉仕体験などのさまざまな実践活動を実践し、自ら活動の楽しみや喜びを体得するとともに、子どもたちを安全に導きながら体験活動を積極的に推進するための知識や技能を修得し、年間をとおして体験活動を展開するSYD指導者の養成に努める。

(1) 自然体験活動リーダー養成

ア. 全国自然体験リーダーキャンプ《子どもゆめ基金助成事業》

カヌーやサイクリング、沢登り、ハイキング、水や野鳥などの自然観察等の自然体験活動を実践するとともに、救急法や野外レクなど自然体験活動を積極的に推進するための知識や技能を修得し、「愛と汗の精神」に基づいた自然体験活動を展開するリーダーを養成する。

期 日 7月～8月 <4泊5日>  
会 場 ばんだいふれあいぴあ  
スタッフ等 SYD指導者等5～6名  
対 象 将来SYD指導者を目指す中学生及びキャンプリーダー等の青年

募集人員 25～30名

イ. 自然体験リーダー研修会 《子どもゆめ基金助成事業》

開催数 全国10～13会場  
期間 5月～7月＜各1泊2日＞  
スタッフ等 SYD指導者等各2名  
対象 将来SYD指導者を目指す中学生及びキャンプリーダー等の青年  
募集人員 各15～20名

(2) 社会奉仕体験活動リーダー養成

ア. 青年ボランティア・アクション in 福島 《子どもゆめ基金助成事業》

ボランティア活動の心構えや福祉ボランティアの基本的技術を習得し、福祉施設や公共施設等での社会奉仕体験活動を実践し、社会奉仕体験活動の楽しみや喜びを体得することにより、ボランティア精神を涵養し指導者として資質の向上を図る。

期 日 平成23年3月31日～4月5日 ＜5泊6日＞  
開催地 福島県  
スタッフ等 SYD指導者等5名  
対象 SYD指導者を目指すキャンプリーダー等の青年  
募集人員 25名

イ. 青年ボランティア・シンポジウム 《子どもゆめ基金助成事業》

幅広い分野でのボランティア活動についてのシンポジウムを行い、ボランティアグループの活性化や新たなる組織の結成に向けての有意な高校生プランナーの育成を図り、老壮青の幅広い年代層を取り込んだボランティアを模索し活動の展開を図るための指導者を養成する。

期 日 10月 ＜2泊3日＞  
会 場 国立那須甲子青少年自然の家  
スタッフ等 SYD指導者等3～4名  
対象 将来SYD指導者を目指す中学生以上の青少年  
募集人員 30名

ウ. ボランティア・フェスティバル 《子どもゆめ基金助成事業》

期 日 平成23年2月 ＜2泊3日＞  
会 場 SYDホール/国立青少年センター  
スタッフ等 SYD指導者等5名  
対象 将来SYD指導者を目指す中学生以上の青少年  
募集人員 50名

エ. 報告書の作成 《文部科学省後援／子どもゆめ基金助成事業》

部 数 1,500部  
体 裁 A4版、32頁

(3) SYD指導者資格認定制度

自然体験活動や社会奉仕体験活動等を日常的に展開する指導者の養成を目指し、自然体験活動推進協議会(CONE)と連携した指導者資格証を発行するなど、SYD指導者資格認定制度の運用と充実を図る。

#### 4. 青年組織育成

“愛と汗の精神”に基づいた、自然体験・社会奉仕体験を中心とした青少年育成活動の充実を図り、本部と各青年部間の連携を密にし、情報交換を行い、青年部活動の活性化と連携を図るための協議を行う。また、SYDの理念を学ぶと共にさまざまな体験活動やその展開方法について学習し、年間を通して体験活動を展開する組織の育成、充実に努める。

##### (1) SYDキャンプアカデミー開設に向けての研究協議会の開催【新規】

《子どもゆめ基金助成事業》

全国でキャンプ等の青少年活動を実践している指導者の代表を一堂に会し、これからの自然体験等をはじめとするSYD活動の運営方法や指導者のあり方を協議し、近未来の指導者を養成するための「SYDキャンプアカデミー」開設に向けての研究協議会をスタートする。

開催数 年4回

会場 SYD会議室等

参加者 15名(青年部組織の代表者)

##### (2) 自然体験キャンプ担当者会議《文部科学省後援／子どもゆめ基金助成事業》

期 日 6月 <1泊2日>

スタッフ等 SYD指導者等4～5名

会場 SYD16階会議室／国立青少年センター

参加者 20名(青年部組織の代表者)

##### (3) SYD青年ゼミナール《子どもゆめ基金助成事業》

開催数 年8回

講師 各1名(海外ボランティア経験者等に委嘱)

会場 SYD16階会議室

募集人員 各20名

##### (4) 指導者の派遣と青年組織活動への助成

青年部組織の強化・拡大と活動の充実・活性化を図るため、指導者の派遣と組織活動への助成を行う。

ア. 指導者の派遣

派遣回数 10～15回

派遣期間 2泊3日～4泊5日

イ. 青年組織活動への助成

#### 5. 関係機関・団体との協力

青少年教育及び社会教育の関係機関及び諸団体との連携を図り協力し合い、青少年の健全育成ならびに社会教育に寄与する活動を展開する。

## II. 国際交流

## 1. 青年ボランティア・アクション in フィリピン

### (1) 10周年記念「ボランティア・アクション in フィリピン」《文部科学省後援》

フィリピンケソン市パヤタスのゴミ捨て場で働く子どもたち（スカベンジャー）やマニラ市のストリートチルドレン（路上で生活する子どもたち）を訪問し、ふれあい活動・交流活動・支援活動のボランティア活動を実践するとともに、フィリピン青少年指導者との交流活動や文化史跡の視察活動を通して訪問国の理解と友好親善に努める。このことにより、日本の青少年の国際的視野を広げ、国際協力の精神を涵養し、国際協力における実践力を培い、学校や地域で活動する青少年指導者を育成する。

期 日 8月下旬 <6泊7日間>  
訪 問 地 マニラ市、ケソン市 等  
ス タ ッ フ 3名（内事務担当者1名）  
参 加 者 青少年30名（ボランティア活動に強い関心があり、ボランティア活動の指導者を目指す満15歳以上～29歳までの青少年）  
指導者10名（支援活動を行っているあるいは今後行おうとしている満30歳～60歳までの心身共に健康な方）  
主な日程 マニラ市内のストリートチルドレンやパヤタスのスカベンジャー（ゴミ捨て場で働く子どもたち）とのふれあい活動やボランティア活動等

### (2) 10周年記念青年ボランティア・アクション in フィリピン写真展【新規】

公民館やデパートなど大勢の人の集まる場所に、これまでの活動の写真を展示することにより、より多くの人たちに広報し、関心を高めるなど、SYDの活動を社会的にアピールする。

期 日 8月下旬<6泊7日間>  
会 場 公民館やデパート

## 2. ブラジルとの指導者交流事業

### (1) ブラジルへの指導者派遣

ブラジル修養団の要請に応じて指導者を派遣し、日伯文化協会等と連携しながら開催される少年少女講習会や教育講演会及びブラジル修養団青年指導者研修会等に従事する。

期 日 平成23年1月～2月 <43日間>  
派 遣 者 SYD講師1名

### (2) ブラジル青少年指導者の招聘

ブラジル修養団の推薦する青年リーダーを招聘し、伊勢講習会や子ども自然体験キャンプなどの参加・研修することにより、ブラジルで開催される少年少女講習会等で活躍する青少年指導者の養成を図る。

期 日 7月中旬～8月中旬 <21日間>  
招 聘 者 青年リーダー 1～2名

## 3. 関係機関・団体主催事業への派遣・受入協力

内閣府、国立青少年教育振興機構、(社)中央青少年団体連絡協議会 等が実施する青少年や指導者を対象とした国際交流派遣事業に積極的に参加者の推薦を行うとともに、国内における各種国際交流活動への指導者・青少年の参加を促進する。

## Ⅲ. 講習会・講演活動

企業・団体等の社員、または個人を対象に「良き企業人である前に、良き社会人であれ」をモットーに、「愛と汗」の精神を基本にした健全な価値観を形成し、より良い人格を研くことを目的に開催する。また、受託講習会・セミナーや講演会に講師を派遣し、“愛と汗”の精神の普及に努める。

## 1. 伊勢講習会

### (1) みがく講習会 <3泊4日>

期 間 4月～平成23年3月  
開 催 数 11回  
定 員 各60名

### (2) みがく特別講習会 <1泊2日>

期 間 平成23年1月～2月  
開 催 数 4回  
定 員 各100名

### (3) 神嘗祭講習会 (定員：①+② 100名)

期 日 ①10月15日～17日<2泊3日>・・・初穂曳き・神嘗祭コース  
②10月16日～17日<1泊2日>・・・神嘗祭コース

### (4) 初詣新春の集い

期 日 平成23年1月  
定 員 80名

### (5) 一般講習会(企業等)

#### ア. 3泊4日コース

期 日 年間  
開 催 数 1回  
定 員 120名  
参加予定企業＝株式会社東芝

#### イ. 2泊3日コース

期 日 年間  
開 催 数 3～4回  
定 員 各40名  
参加予定団体＝ゼルネットワーク、春風塾、伊勢の風を感じる会、神話を体感する会等

## 2. 関東・東北地区講習会

### (1) リフレッシュセミナー

中堅社員等を対象として、心身をリフレッシュさせ新たな活力を生むことを目的としたセミナー。

期 日 平成23年2月<2泊3日>  
会 場 福島県下  
対 象 18歳以上  
定 員 40名

### (2) 新入社員セミナー「宿泊コース」

学生から社会人への意識変革を図るとともに、“愛と汗”の人づくりを目的としたセミナー。

期 日 4月<2泊3日>  
会 場 福島県下  
定 員 50名

### 3. 受託セミナー

多種多様な企業の要望に応えるセミナーを企画し、企業が求める人材育成に貢献する。

実施回数 60回

#### (1) ブラインド・ウォークセミナー

“思いやりの心” “信じ合う心” “感謝の心” の三つの心を体感し、より温もりのある心豊かな人間関係を築くことを目的としたセミナー。

コース：半日、1日

#### (2) パート社員セミナー

スーパーマーケット等のパートタイム社員を対象に、職場の人間関係をより円滑にするための心のあり方や対人関係スキルの向上を目的としたセミナー。

コース：1日、1泊2日

#### (3) 新入社員セミナー

学生から社会人への意識変革を図るとともに、“愛と汗” の人づくりをねらいとしたセミナー。

コース：半日、1日、1泊2日、2泊3日

#### (4) 一般社員セミナー

一社単独による研修で職場リーダーの育成を目的としたセミナー。

コース：1日、1泊2日

### 4. 青少年・社会教育団体等への講師派遣・斡旋

委嘱講師の充実を図り、青少年団体をはじめ学校、諸団体、企業に積極的に働きかけ、講習会・家庭教育講座や人生講座への講師派遣や、レクリエーション、キャンプ等へのプログラムを企画立案し指導者派遣の一層の充実を図る。

## IV. 家庭教育活動

### 1. さわやか家庭《共育》セミナー

連合会・支部を実施団体として、地元の幼稚園、保育園、小中学校PTAなど諸団体と連携し、会員はもとより広く参加を呼びかけて開催する。

開催数 15会場<各半日または1日>

期間 通年

参加者 各50～100名

派遣者 各講師1～2名

## V. 会員・組織活動

### 1. 「幸せの種まき運動」の推進

会員および支部・連合会等と連携を図りながら、下記事業・活動を展開し、「幸せの種まき運

動」を推進する。

(1) 修養団創立105周年記念の集い

開催日 平成23年2月11日(金・祝)

会場 SYDホール

(2) 愛汗実践塾

開催数 5会場<各1日>

参加者 各10~30名程度

派遣者 各講師2名

(3) 皇居勤労奉仕団【新規】

開催月 11月<4泊5日>

参加者 45名

派遣者 2名

(4) ストリートチルドレン支援・チャリティー「演芸会とバザー」

—第13回「幸せの種まき祭り」—

開催月 6月26日(土)

会場 SYDホールなど

(5) 第7回「平田康子チャリティーJAZZコンサート」—ストリートチルドレン支援—

開催月 10月22日(金)

会場 SYDホール

## 2. 支部・連合会活動への支援と会員加入促進

クラブ・支部・連合会等の活動充実のため講師派遣などの支援を行うとともに、事業参加者等への会員加入促進を図る。

(1) 講師等の派遣

派遣数 30回程度(随時)

(2) 連合会等主催「皇居勤労奉仕」への支援

連合会・支部による皇居勤労奉仕の実施を支援する。

実施数 3回<各4泊5日>

(3) 『SYDかわらばん<最新活動情報>』の発行・配布

毎月20日(8月を除く)に各1,200部発行し、各連合会・支部・クラブ等に配布する。

※主な情報はホームページの「Webかわらばん」で発信する。

(4) 諸団体との連携

社会教育団体振興協議会など諸団体との連携を図る。

## VI. 幸せの種まき献金運動

会員および支部・連合会等を通じて広く募金活動を行い、「幸せの種まき献金活動」を推進する。

### 1. 募金活動

連合会・支部・クラブを通じて会員はじめ広く呼び掛けるとともに、「幸せの種まきキャンペーン《出前講座》」実施校などの協力も得て、積極的に募金活動を展開する。また、献金活動の促進普及をめざした活動報告書などを作成し、配布する。

## 2. 支援活動

フィリピンをはじめとする海外のストリートチルドレンを中心に支援活動を行う。また、国内外の災害被災者の支援、各施設への支援も必要に応じて行う。

# VII. 出版・広報活動

## 1. 機関誌『向上』『愛』の発行

### (1) 『向上』

「幸せの種まき運動」を推進する修養団の機関誌にふさわしい連載や随想を掲載し、合わせてSYDの事業や連合会・支部組織の活動を紹介して、「愛と汗」の精神の普及に努める。

### (2) 『愛』

特に子育てや、身近な青少年たちの理解と健全育成に参考となるよう、常に工夫しながら「幸せの種まき」のための誌面作りを努める。

7月号、11月号、3月号は、ふれあい会員に向けた「ハートフル・ネットワークふれあい特集号」とする。

## 2. 平成23年度版「日々の力」の制作・販売

販売目標22,000部（制作23,000部）

## 3. 教育図書の普及、教材の販売

「人生成功のバイブル」、「人生のことば365日」などの人生書や教育図書、研修教材等の販売に努める。

## 4. ホームページの充実

事業部署ごとに、ホームページ更新およびブログを通じての最新情報の提供を行う。

<http://www.syd.or.jp/>

# VIII. 施設運営事業

## 1. 伊勢研修センター

### (1) 施設運営

- ア. 講習会を事業の中心として運営する。
- イ. 施設の有効活用を図る。（貸し会場等）
- ウ. 施設利用者の団体に、本団教育プログラムの取り入れを意図していく。
- エ. 地域の各団体との連携を密にし、各事業を展開していく。

### (2) 出版広報活動

- ア. 講習会案内パンフ・センターの施設案内パンフレットを作成し、利用を促す。
- イ. 『向上』『愛』誌を通じて活動の報告、広報活動に勤める。
- ウ. ホームページを通じ、伊勢道場の事業及び講習会等の情報発信・広報に勤める。

エ. 青少年育成事業などの発信に新聞、地元ケーブルテレビ等メディアの協力を仰ぐ。

## 2. 修養団SYDビル・SYDホール

- ・セミナー、講演会や各種活動の拠点として一層の有効活用を図る。
- ・2階ホール及び16階会議室の利用を促進する。
- ・テナントに対し、快適なオフィス環境を提供するよう適性管理に努める。

## 3. ばんだいふれあいぴあ

- ・自然体験活動の拠点として有効活用を努める
- ・施設の整備を行い、利用者拡大を図る。

## 4. 関西会館

- ・SYD関西地区の拠点となるよう活動支援を図る。
- ・テナントスペースを含め、施設の適正管理に努める。

# IX. 表彰

## 1. 第5回SYDボランティア奨励賞

都道府県教育委員会、主要市町村教育委員会、キャンプ開催地や参加者のいる小・中学校、高校、大学を中心にSYDボランティア奨励賞・パンフレットを配布、応募を呼びかける。顕著な活動を顕彰することにより、ボランティア活動に対する意識を高揚し、活動への参加を促して青少年の健全育成に寄与する。

### (1) SYDボランティア奨励賞(文部科学大臣賞)・副賞の贈呈

表彰式 平成23年2月11日(予定)  
会場 SYDホール

### (2) SYDボランティア奨励賞・パンフレット配布

体裁 A4版、2頁、4色刷  
部数 20,000部  
配布先 20,000カ所

## 2. 平成22年度修養団年次功労者表彰

# X. 関係機関・団体、教育界との協力・連携活動

青少年教育及び社会教育の関係機関、諸団体並びに各地の教育委員会や学校、教師への積極的アプローチを推進し、連携を図り、協力し合って活動を展開する。